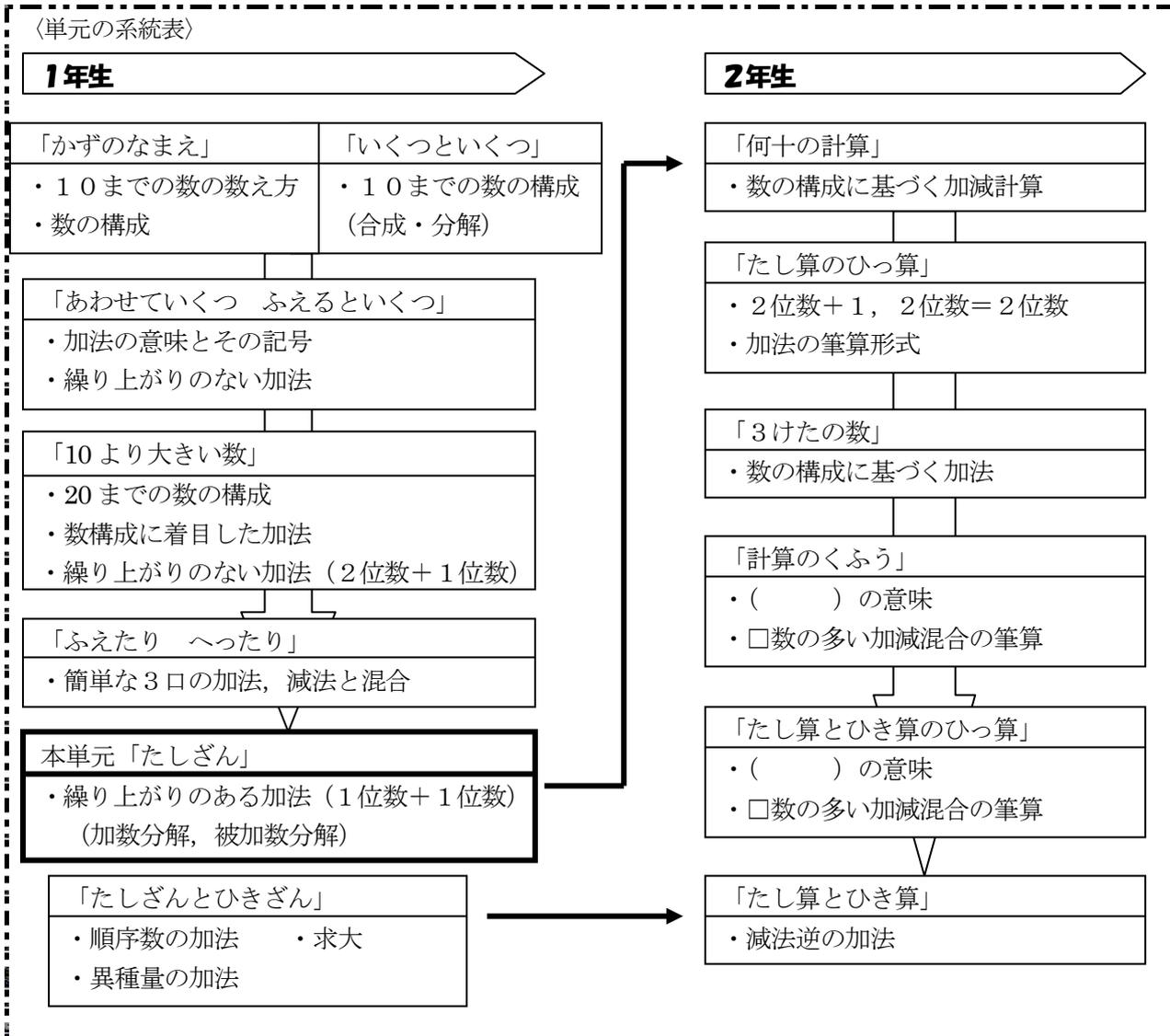


単元名 「たしざん」

1 指導観



○ 本単元は、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算の方法を理解し、それをを用いることができるようになることを主なねらいとしている。具体的には、①1位数と1位数との加法の計算の仕方を考え、その計算が確実にできること、②10のまとまりを作って計算することの良さを知り、計算することができること、③10のまとまりをどのようにするとつくりやすいかを考え、計算することができること、の3点である。これらのことは、次学年で学習する加法の筆算の基礎となることから、意義深い学習内容と言える。

○ 本学級の児童は、これまでに「いくつといくつ」「10より大きい数」で20までの数の構成について、「あわせていくつ ふえるといくつ」や「ふえたりへったり」では、加法の意味や計算のしかたについても学習してきた。また、半具体物の操作を、図や式に表現したり言葉で表したりすることをしてきている。表現することができない児童もいるが、友達の発表を聞くことで表現の仕方を少しずつ学んできている。

以上のような既習の定着状況を把握するための前提テストを行った。結果は、以下の通りである。

(9月22日 28/28名実施)

No.	前提内容	問題	結果(正答率/誤答例)
1	繰り上がりのない加法の計算ができるか。	① 5+2 ② 3+6 ③ 2+7 ④ 4+2 ⑤ 8+2 ⑥ 1+9 ⑦ 10+5 ⑧ 2+10	① 96.3% ② 96.3% ③ 96.3% ④ 96.3% ⑤ 92.6% ⑥ 92.6% ⑦ 92.6% ⑧ 92.6% 全て =なし
2	20までの数の合成・分解ができるか。	① 4と3で 合成 ② 6は2と 分解 ③ 7と3で 合成 ④ 10は2と 分解 ⑤ 16は10と 分解 ⑥ 10と8で 合成 ⑦ 19は10と 分解 ⑧ 2と10で 合成	① 100% ② 88.9% (6は2と8) ③ 100% ④ 81.5% (10は2と12) (10は2と10) ⑤ 96.3% (16は10と10) ⑥ 96.3% (10と8で2) ⑦ 92.6% (19は10と16) (19は10と10) ⑧ 100%
3	挿絵から合併の場面を読みとることができるか。 ・ブロックを正しく動かす。 ・ブロック図をかく。 ・立式し、答えを求める。		(操作) 82.1% (ブロック図) 55.6% □□□ ← □□□ (増加) □□□ □□ (←なし) (式) 96.3% (5+3) (答え) 96.3% (8ひき)
4	挿絵から増加の場面を読みとることができるか。 ・ブロックを正しく動かす。 ・ブロック図をかく。 ・立式し、答えを求める。		(操作) 85.7% (ブロック図) 85.2% □□□□ □□□ (←なし) □□□□□□□ □□□ (←なし) (式) 92.6% (7+3 4+3=6) (答え) 88.9% (10, 7, 6)
5	ブロック操作をしながら説明できる。	7-5の計算のしかたをブロックを使ってお話してください。 ①できない。 ②答えだけ言う。 ③黙って操作して答えを言う。	①3.6% ②7.1% ③7.1%

	④操作して、言葉でも言える。	④82. 1%
--	----------------	---------

【前提テストの結果考察】

問題①の結果から、繰り上がりのない加法については、指を使いながら計算をしている子もいるが、＝なし以外のミスも見られず、計算ができていくことがわかる。

問題②については、数の分解についての正答率の低さが目立つ。前の数と後の数をたしたことにより、間違えているものが多く、助詞の意味が理解できていないと思われる。また、言葉とブロックを対応させながら、操作をさせる経験が不十分ということも考えられる。そこで、朝の帯タイムなどを使って、「数の構成」について数字・ブロック・言葉を対応させながら、復習をしていきたい。

問題③と④については、問題場面において、「合併」と「増加」の違いが曖昧になっている児童が多いことが分かる。特に、③については、ブロック操作ができていても、それを図に正確に表すことができていないことが分かる。繰り上がりのたし算においても同様のことが考えられるため、交流場面において、ペアによる追体験を入れ、交流の視点をはっきりとさせることで、結果だけを説明するのではなく、操作しながら自分の考えを説明したり、相手の考えを聞いたりできるようにしていきたい。また、④の式と答えの正答率が、③に対して低いのは、数が大きくなっていることが原因だと思われる。このことから、学習プリントに載せる問題場面の絵をブロックに置き換えやすい大きさにするなどして、絵からブロックへの置き換えを丁寧に行っていきたい。また、答えの単位を間違える児童もいたため、本単元では、問題文の中の求答事項や答えの単位に印をつけるなどして、1つ1つ確認させていきたいと考える。

問題⑤の結果から、既習の内容でも、順序良く話すことや、話しながらブロックを操作できない子どもがいることが分かる。交流場面では、自分の考えを相手に伝えることが大事な力となってくるので、言葉を声に出して表現する力をつけていく必要があると考える。そのため、話し方を指導し、復唱させるなどの練習をさせ、定着を図っていきたい。

- 本単元の指導にあたっては、低学年部の研究仮説『思考活動④⑤の段階において、小グループによる交流の設定や思考を整理しやすくする板書の工夫・類似問題の設定の工夫を行えば、考えを伝え合うことができ、思考活動の活性化を図ることができるであろう。』をうけて、次のような手だてを単元を通して行う。

思考活動①（問いを生み出す思考活動）を活性化させるため、数字や数図カードを用いて、たし算問題を作り、既習内容と未習内容を整理し、単元についての学習の見通しをもてるようにする。

繰り上がりのたし算を使う場面は、生活の中からもたくさんみつけることができる。本単元では、お祭りで出店されている店に行くという場面を設定し、ヨーヨーつりや金魚つりなどの問題場面を用意し、児童が興味をもって取り組むことができるようにする。また、問題になる数値に着目できるように、さんちゃんとすうくんをいつも登場させる。

思考活動②（解決への見通しをもつ思考活動）を活性化させるため、既習に戻ることができる掲示物の工夫を行う。掲示物の中には、半具体物を操作した図や式を載せたり、1時間ごとに獲得した考え方を載せたりすることで、自力解決の手助けとなると考える。

思考活動③（考えをつくる思考活動）を活性化させるため、学習プリントの工夫を行う。学習プリントの中には、問題場面の数値に着目し、既習内容と比較して気づいたことを記述する場・半具体物で操作したことを矢印やことばを使って表現する場等を作る。これらのことにより、児童が自らの考えを整理し、思考を深めていけると考える。

思考活動④（より確かな考えをもつ思考活動）を活性化させるため、自力解決後に、2人組の交流を行う。交流では、自分の考えを説明することと相手の考えを追体験することの2つを取り入れる。これらのことにより、自分の考えを整理すると共に、相手の考えを理解することにつながり、考えの共通点・相違点を見つけていくことができる。全体交流の際には、ブロック操作・さくらんぼ図・ことばをつなぐ活動を取り入れる。また、「はやくい・かんたん」の観点からそれぞれの考えの良さを話し合う。そのことにより、被加数分

解と加数分解の計算の仕方の理解が深まると共に、数が小さい方を分けると10のまとまりが早くできることに気づいていくと考える。

思考活動⑤（考えをまとめ振り返る思考活動）を活性化させるため、本時でまとめた考えを使って類似問題を解く。そのことによって、友達の考えのよさを認め実感すると同時に自分達の生み出した数理を確かに行うことができる。また、「今日の学習で」に、自分が立てた見通しをもとにつくった考えと全体交流で出てきた別の考えを比較して、気づいたことを書かせる。そのことによって、自分の考えを見直すことができると考える。

繰り上がりのある加法の基礎となる10の補数、和が10以内の加法計算については、単元全体を通して、朝の帯タイムにおいて適宜練習の機会を設け、計算技能の定着を図ることができるようにする。そのことによって、本単元の基礎が強化され、本単元の学習に生かされると考える。

2 目標

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを理解し、それを用いることができる。

(1) 関心・意欲・態度

数の構成や10に対する補数などの学習経験を生かして、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを進んで考えようとする。

(2) 数学的な考え方

20までの数の構成や10に対する補数に着目して計算のしかたを考える。

(3) 表現・処理

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができる。

(4) 知識・理解

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを理解する。

3 単元計画（全14時間）

時	学習活動	主な支援	主な評価規準
(1) 単元計画を立てる（1時間）			
1	○ 数字や数図カードを用いて、1位数どうしの問題を作り、既習と未習の内容を分け、学習の見通しをもつ。	○ たし算の言葉をふり返り、問題作りを想起させる。 ○ 既習内容と未習内容を比較し、共通点と相違点を見つける場を設定する。	関 日常場面からたし算の場面を見つけようとする。 考 答えの数値の大きさに着目して、既習と未習の問題に分けようとしている。
(2) 加数分解と被加数分解による繰り上がりのある加法計算（2時間）			
1	○ 1年2組のみんなと「てりはたしざんまつり」に出かけることを知る。 ○ 場面を読み取り、 $8+7$ の計算の仕方について考える。	○ 問題文から式化した後に、既習掲示物を見ながらこれまでの学習と比べ、違いを見つける。	考 既習を生かして、10のまとまりをつくることを考えている。
2	○ $8+7$ の計算の仕方の発表をもとに、10のまとまりを作る方法には2通りあることを知る。	○ 10のまとまりを作ると答えが早くできることをおさえる。	知 答えが10より大きい数になる計算では、10のまとまりをつくと良いことを理解している。

(3) 加数分解による繰り上がりの加法計算 (5時間)			
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場面を読み取り、$9 + 4$の計算の仕方を考える。 ○ 加数分解による計算方法についてまとめ、被加数が9の場合の計算に取り組み、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題文から発見したことを交流し、既習との違いに気づくことができるようにする。 ○ 答えが10より大きくなることから、10のまとまりに着目して考えることができるよう既習の「10といくつ」を掲示する。 ○ はかせの視点を与え、加数分解による計算の仕方の良さに気づくことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関 10に対する補数に着目して、計算の仕方を考えようとしている。 考 繰り上がりのあるたし算について、10のまとまりに着目して考えている。 表 加数分解による計算ができる。 知 加数分解による計算の仕方を理解している。
3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 被加数が8の場合の計算の仕方について考え、加数分解による計算方法についての理解を深める。 ○ 被加数が7の場合の計算の仕方について考え、加数分解による計算方法についての理解を深める。 ○ 計算練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の問題と比べ、計算の仕方を考えるようにする。 ○ 加数分解の計算の仕方を取り上げ、前時の加数分解と比べる。その後、共通点を見つけさせ、加数(小さい数)を分けていることに気づかせる。 ○ ブロック操作をし、10のまとまりのつくり方を確認しながら、加数分解の計算方法について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 表 加数分解による計算が確実にできる。 知 被加数が8・7の場合でも、10のまとまりを作ればよいことを理解している。
(4) 被加数分解による繰り上がりの加法計算 (2時間)			
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場面を読み取り、$3 + 9$の計算の仕方を考え、被加数分解による計算方法についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習と違い、被加数の数が小さくなっていることをおさえる。 ○ 被加数分解の計算の方がはやく計算できることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 考 被加数・加数の大小に着目しながら、10のまとまりをつくらうとしている。 表 ブロックを用いて操作したことを図や言葉で表すことができる。 知 被加数分解による計算のしかたを理解している。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 被加数分解による計算方法を用いて問題を解き、計算練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブロックや図・式を用いて計算をし、どちらの数を分けているかを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知 被加数分解による計算のしかたのよさが分かる。
(4) 加数分解と被加数分解による繰り上がりの加法計算 (1時間)			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 加数・被加数分解による計算の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 式の数値によって解決方法を選ぶことができるようにし、自分の計算の仕方を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 考 加数・被加数分解を考えたが計算している。 知 加数・被加数分解による計算の仕方を理解している。
(5) 加法計算の練習 (3時間)			
1 ・	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計算カードを用いたいろいろな活動を通して、繰り上がりの 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで記述していたさくらんぼ計算を、記述せずに計算でき 	<ul style="list-style-type: none"> 表 繰り上がりのある加法計算が確実にできる。

2	ある1位数どうしの加法計算の練習をする。	るよう、記述の量を少しずつ減らし、計算に取り組む。	
3			

4 本時の目標

本時の評価規準① 3 + 9の計算では、数が小さい3を分けて、10のまとまりをつくる計算の仕方を理解する。

本時の評価規準② 10のまとまりをつくるという見通しをもち、自分の考えを図や式、言葉で表現し、答えをどのように導いたかをわかりやすく説明することができる。

5 本時指導の考え方

本時授業仮説

思考活動④、⑤において、以下のような工夫を行えば、子どもたちは、友達の考えを理解し、考えを伝え合うことができ、思考活動が活性化するであろう。

④自分の考えを確かにしたり、友達の考えを理解したりするための2人交流の場の設定

⑤被加数分解のよさを理解できる類似問題の設定

本時は、既習との違いに気づき、被加数を分解して計算する方法について理解することを主なねらいとしている。そこで、以下のような算数的活動の工夫を行い、思考活動の活性化を図る。

思考活動①（問いを生み出す思考活動）では、既習との違いに気づかせたい。そのために、問題の絵から提示していき、数値の違いに気づかせていく。まず、さんちゃんがとったヨーヨーの数を提示し、次にすうくんがとったヨーヨーの数を提示する。さんちゃんとすうくんは、本単元の最初から登場しており、これまで金魚つりや的当てをしている。前時までの学習場面では、さんちゃんがいつも多くつったり、的を当てたりしていた。本時は、初めてさんちゃんがすうくんより、ヨーヨーをつった数が少なくなるため、既習の違いに気づくことができると考える。また、学習プリントにも既習と比べて発見したことを書く欄を設け、既習との違いをはっきりさせる。そして、「今日はどうのように計算すると良いかを考えよう。」という本時のめあてをつくっていく。

思考活動②（解決への見通しをもつ思考活動）では、答えが10より大きくなりそうだという見通しを持ち、前時までの学習を生かして、10のまとまりを作れば答えを求められるという方法の見通しを持たせたい。また、被加数が小さいため、本単元の第1時で見つけた前を分ける方法の見通しもを持たせたい。そのために、既習掲示物の中に、これまでの学習も答えが10より大きくなったときは、10のまとまりを作って答えを出していたことと被加数分解のブロック操作図を載せておく。

思考活動③（考えをつくる思考活動）では、10のまとまりをつくと良いという見通しをもとに、既習の加数分解や被加数分解をし、自分の考えをつくらせたい。そのために、半具体物の操作活動や図を使って自分の考えを作っていく表現活動を取り入れ、学習プリントには、自分の考えを書く欄を設ける。また、加数分解や被加数分解をした理由を書ける欄も設けておく。

思考活動④（より確かな考えをもつ思考活動）では、自分の考えを整理したり、相手の考えを理解したりできるようにさせたい。そのために、席順の隣同士2人組で、ブロックを動かしながら自分の考えを説明する場を設ける。その際、児童が活発に話し合いを進めることができるように、「2人組の説明の流れ」を掲示しておく。2人交流では、自分の考えを説明するだけではなく、相手の考えや操作の手順が、より理解できるような追体験を入れるようにする。追体験では、相手を意識した話し方（「まねしてね。」「まねしたよ。」）をするように指示する。2人交流を行うときの視点は、「どちらの数を分けて10のまとまりをつくっているのか。」とし、説明する側は、ブロック操作やさくらんぼ計算の手順を順序良く伝えるようにし、聞く側は相手がどちら側を分けて計算したのかを考えながら聞くようにする。

全体交流では、自分の考えを確かにするとともに、自分の考えと別の考えとの違いに気づいたり良さに気づいたりすることができるようにさせたい。そのために、発表後に計算の手順をおさえながら、さくらんぼ計算で数

を分けた所をブロックで操作したり、ブロック操作でしたことをさくらんぼ計算で表現したりして、ブロック操作とさくらんぼ計算をつなぐようにする。このことにより、自分とは別の考えの計算の仕方も理解し、自分の考えと別の考えを比較することができると思う。その際に、板書が複雑化しないようにするため、10のまとまりを作るという共通点とどちらを分けたのかという相違点の部分がはっきりと分かるようにし、児童自らが共通点と相違点を見つけることができるような、また、それぞれの考えが対比できるような板書の構成をしていきたい。

最後に、加数分解と被加数分解を比べ、共通点と相違点を再確認し、今日の問題の場合は、どちらの方が10のまとまりを作りやすいかを考え、「3を分けて10のまとまりをつくることもできる。」という本時のまとめへとつなぐ。

思考活動⑤（考えをまとめ振り返る思考活動）では、被加数分解の計算の仕方を確認させたい。そのため、被加数分解をして計算する類似問題に取り組みさせる。その後、「今日の学習で」を書く。「今日の学習で」では、自分が立てた見通しから振り返り、自分の考えを見直す機会とする。

6 準備

- 教師：既習掲示物・問題の挿絵・教師用ブロック・児童用の学習プリント
- 児童：ブロック

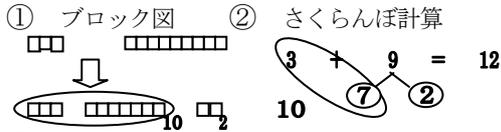
7 学習指導過程（9/14）

学習活動と内容	『発問』, 主な支援 (*)	評価規準	時
<p>1. 本時学習問題を知り、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習問題</p> <p>ヨーヨーつりをしました。さんちゃんは、3こつりました。すうくんは、9こつりました。あわせて、なんこつりましたか。</p> </div> <p>〔思考活動①（問いを生み出す思考活動）〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ すうくんが初めて多くとったね。 ○ さんちゃんが少ないね。 ○ 前の数（被加数）の方が小さいよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>3 + 9のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> * 問題の意味を把握できるように、問題文に印をつける。 * 既習と比べることができるように、学習プリントの「はっけん」の部分に既習との違いを書くようにする。 <p>『前の学習と比べて、気づいたことはありますか？』</p> <p>『今日は、前の数が小さいときの計算の仕方を考えるんだね。』</p>		8
<p>2. 解決への見通しをもつ。</p> <p>〔思考活動②（解決への見通しをもつ思考活動）〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えは、10よりも大きくなるね。 ○ 10のまとまりをつくと良かったね。 ○ 今までと同じで、うしろの数（加数）を分けよう。 ○ 3の方が数が小さいから、まえの数（被加数）を分けてみよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> * 10のまとまりをつくるという見通しを持たせるため、既習掲示物に10より大きい数の学習をいれる。 * 見通しの段階で、後に分ける方法と前に分ける方法を出すために、それらの方法で計算をしている既習掲示物を用 	10のまとまりをつくる見通しをもっている。 (発言)	5

3. 見直しをもとに、考えをつくる。

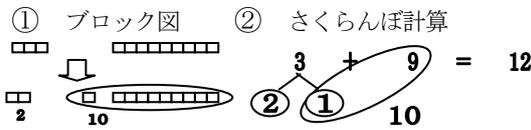
〔思考活動③（考えをつくる思考活動）〕

A：〔加数分解〕



③ ことば
はじめに、3はあと7で10です。
つぎに、9を7と2にわけます。
さいごに、3と7で10。
だから、10と2で12。

B：〔被加数分解〕



③ ことば
はじめに、9はあと1で10。
つぎに、3を2と1にわけます。
さいごに、1と9で10。
だから、2と10で12。

4. 交流を行う。

〔思考活動④（より確かな考えをもつ思考活動）〕

(1) 2人交流を行う。

- 自分の考えを説明したり相手の考えを聞いたりすること

(2人交流)

目的：自分の考えを順序良く説明する。相手の考えを聞く。

組み方：隣の児童と。

話し合いの視点：10のまとまりをつくるためにどちらの数を分けているか。

(2) 2人交流をしたことをもとに、全体交流を行う。

- 加数分解と被加数分解のそれぞれの相違点と共通点を話し合うこと
- 加数分解と被加数分解を比べて、 $3 + 9$ の計算の場合は、どちらの方法が良いかを話し合うこと

意しておく。

* 手が止まっている児童には、「10のまとまりを作るためには、どちらを分けると良いかな?」と、聞く。

* 早く終わった児童には、以下の声かけを行う。

ブロック図→さくらんぼ計算
さくらんぼ計算→加数・被加数を分けた理由

理由まで書いている→発表練習

* 全員が2人交流が行えるようにするため、自力解決に時間がかかる児童には、ブロック図の補助プリントを渡す。

* 相手の考えが理解できるよう、相手がしたことを順番に追体験していくようにする。

* 自分の考えと相手の考えを再確認するため、どちらの数を分けて計算したかの視点で同じ考えだったのか違う考えだったのかを話し合う。

* 2人交流ができるよう、自力解決が途中で終わっている児童がいたときは、隣の児童が教えるようにする。どちらも途中の場合は、教師が入る。

(考えを共有し合う場)

* 2人交流をもとに、全体交流へとつなぐことができるように、相手と自分の考えが同じか、違うかを聞く。

* まず、Aの考えから発表する。Aの考えは、前時までに多数の児童が使っていた方法

10のまとまりをつくりながら、自分の考えを作っている。
(操作、学習プリント)

(2人交流)

話す

A：自分が行った計算の仕方を順序良く説明することができる。

B：自分が行った計算の仕方を説明することができる。

交流

A：お互いの考えを比べて、計算の仕方についての共通点や相違点に気づき、伝えることができる。

B：交流を通して共通点や相違点に気づくことができる。

<p>(全体交流)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">A 9を 分ける。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">B 3を 分ける。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">うしろわけのじゅつ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">まえわけのじゅつ</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>比較</p> <p><u>相違点</u></p> <p>○ 分ける数が違う。</p> <p><u>共通点</u></p> <p>○ 10のまとまりをつくる。</p> <p>○ 答えがどちらも12になる。</p> <p><u>3+9の計算では、どちらの方法が良いか</u></p> <p>○ 3を分けた方が良い。</p> <p>○ 3を分けた方が早いのは分かるけど、9を分けたい。</p> <p>○ 9を分けるのが良い。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>○ 前の数が小さいときは、まえわけのじゅつが簡単だよ。</p> </div> <p>5. 本時学習をまとめる。</p> <p>[思考活動⑤(考えをまとめ振り返る思考活動)]</p> <p>(1) 3+9の計算の仕方についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>3+9のけいさんのしかたは、3をわけて、10のまとまりをつくるまえわけのじゅつをつかってもできる。</p> </div> <p>(2) 類似問題を解く。</p> <p style="margin-left: 20px;">2+9</p> <p>(3) 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>なので、さくらんぼ計算をつかって説明を行った後に、ブロック操作とつないでいく。</p> <p>* 次に、Bの考えを発表する。前時までは、10のまとまりをつくる時の「はやい・かんたん」の視点から、Aの考えに注目して学習を進めており、Bの考えで計算をする機会が少なかったため、ブロック操作から発表する。その後、ブロック操作とさくらんぼ計算をつないでいく。</p> <p>* 「10のまとまりをつくる」という共通点と「分けた数が違う」という相違点を再確認するため、『2つの考えの違うところはどこですか?』と『同じ考えはどこですか?』と発問する。</p> <p>* まとめにつなぐため、『今日の問題では、どちらの考えが良かった?』と発問する。</p> <p>『2+9の問題では、どちらを分けた方が良いですか?』</p> <p>『みんなで話し合ったことと自分の見通しを比べて、気づいたことや分かったことを書こう。』</p>	<p>2つの考えは、10のまとまりがつくられていることに気づく。(発言)</p> <p>(類似問題)</p> <p>A: 被加数を分けた方が早くて簡単な計算になることを理解し、被加数を分けてさくらんぼ計算をしている。</p> <p>C: 被加数を分けた方が早くて簡単な計算になることを理解しているが、ブロック操作で、被加数を分けている。</p> <p>(学習プリント)</p>	9
--	---	--	---